

東京大会で100周年！
デフリンピックは、国際S.D.が主催する、きこえない人のための国際スポーツ大会のことだ。今年の東京大会で100周年となる。参加選手の聴覚条件は、補聴器などを外した状態で、聞こえる1番小さな音が55デシベルを超えている(ふつうの声での会話がきこえない程度)こと。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使って視覚による情報保障が特徴である。デフリンピックならではの見どころに注目だ。(参考)



デフ卓球の亀澤史憲選手(右)とデフバレーの長谷山優美選手(左)

静寂の中の熱戦を楽しむ バドミントン シャトルの音が響き渡る

16日(日)に京王アリーナTOKYOにて、デフバドミントン競技1日目が開催され、編集部員の月と蓮が観戦。1日目では男女シングルスが行われた。会場スタッフは話す人と手話を使う人の二人一組で行動しており、子どもと笑顔で会話を楽しむスタッフさんの姿が。会場では、がんばれ、おめでとう、拍手を表す手話のやり方が描かれたうちわが全員に配布されていた。会場内では一切のアナウンスが流れず、試合状況は渡されたパンフレットの中にQRコードを読み込むことで、閲覧することができた。観客席は、シャトルを打つ音と、選手のシューズが擦れる音だけが響きわたる。観客席の最前列には、スクリーンが設置されており、試合の音が、シャトルを打った際の音の大きさに合わせた3段階の大きさの文字で表現されており、さらに打った選手に合わせた色で表示されていた。試合結果は、永石泰寛選手や鎌田真衣選手ら日本選手が快勝を重ね、リーグ1位で決勝トーナメント進出が決定した。

試合後、試合を見に来ていた何人かの方にお話を聞いた。とある観客は、「前日にラジオでこの大会のことを聞き興味を持ったから、今回デフバドミントンを見にきました」と教えてくれた。また、「自分の家の近所で開催されており、どういったもののか気になったから」という人も。観戦を終え「耳が聞こえない方でも実際の試合と遜色ないレベルの試合をされていて、凄いなと感じました」と試合のレベルの高さに驚いた声をあげる人もいた。記者も手に汗握る試合を見てることができて、とても楽しかった。ぜひ皆さんもデフリンピックを見に行ってほしい。

オリエンテーリング 方向感覚を研ぎ澄まして

16日(日)に日比谷公園にて、オリエンテーリング競技1日目が開催され、編集部員の梅が観戦。オリエンテーリング競技とは地図とコンパスをもってチェックポイントを巡りゴールするまでの速さを競う。1日目に私が観戦したスーパースプリントリレーは男女ペアを組み、女→男×3でゴールする速さとチェックポイントの正確性を競う。会場となっただ日比谷公園ではスタートとゴールが目の前にある場所で観戦できた。選手の途中の様子は観客の会場に設置された大きなモニターで選手の様子を見られた。観客が、選手の姿が見えるたびに拍手の手話を応援している姿が印象的だった。

結果はフィンランドチームが優勝。日本チームは6位でゴール。試合終了後、大興奮の観客の皆さんにインタビューさせていただいた。ある方は、「今回出場している辻選手のやっている手話講習会の生徒で、先生の応援に来ました。各国の人々と交流できて楽しいです」と笑顔。また別の方は、「趣味でオリエンテーリングをやっています。日比谷公園は立ち入り禁止の場所も多いのでルート選択が難しいと思います。オリエンテーリングは足が遅くとも地図さえ読めばカバーできるので楽しいですよ」と話してくれた。実は大会が終わった後試合会場となった日比谷公園で地図を見ながら走ってみた。全力で走ると地図がぶれて読めず、ちゃんと地図を読もうとすると時間がかかってしまった。また、地図を読んでいたはずなのに前の方に見えるはずの池を追い越していた時もあった。自分がどこにいるのかわからないというのと時間が過ぎていくという焦りがありとても難しくて、改めてこの競技に挑む選手はとてもすごいと感じた。(梅)



選手が通るたびに、手話の拍手が送られる

むらさき草

東京大会に向けて意気込む

関東大会に向けて意気込む

表して渡部さん、牛島さんに大会を振り返ってもらった。

女子団体戦について、渡部さんは1位で関東大会に行くのが目標だったため2位は悔しかったが、行くからには東京代表としての意識をもって練習に取り組んでいきたいと語ってくれた。また牛島さんは、やっと努力が実って先生を関東大会に連れていくことができたよかったですと男子団体戦を振り返る。

渡部さんは、「一緒に毎日練習してくれている仲間にとても感謝していて、代表メンバーに選ばれなかった部員たちの分も頑張って練習に取り組みたい」と意気込む。牛島さんもメンバーに「全国大会に出場できるよう、互いに切磋琢磨し成長していく」とメッセージを送った。空手道部は、大内先生の名言「1位以外いらねえから、時間は戻ってこないから一瞬一瞬を意味ある時間に」をモットーに練習に励んでいるそうだ。次の関東大会に向けて、渡部さんは「全国大会を目指したいです」と気合を入れていた。牛島さんは「空手だけでなく人間としても、関東代表にふさわしい人となれるように頑張りたいです」と思いを語った。(蒲)

言葉の壁を越えてつながる私たち ぜひ会場で選手を応援しよう！



8月の小金井市イベントにて、デフ陸上日本代表の山田真樹選手と記念撮影！手話は「デフリンピック」。山田選手は11月19日に陸上競技400mで日本勢1人目の金メダルを獲得しました！おめでとうございます！

編集部員、現地で応援①

2025年11月15日(土)に第25回夏季デフリンピック東京大会が東京体育館で開幕した。同日の開会式のチケット応募は編集部全員が落選したが、気を取り直してNHKのハイライト放送で観覧した。

開会式で一番印象に残ったのは炬火リレーが光の球で行なわれたこと。東京体育館は室内のため火をともすことが出来ない。そのため手に持った球に灯っている光を受け渡していたのが会場の暗さや光の

淡さも相まって幻想的な映像になっていた。炬火リレーにはデフリンピックに日本が初参加したとき、メダルを獲った鈴木リヲ子選手らが参加。高市総理などのスピーチでは日本手話と国際手話の同時通訳が行われた。

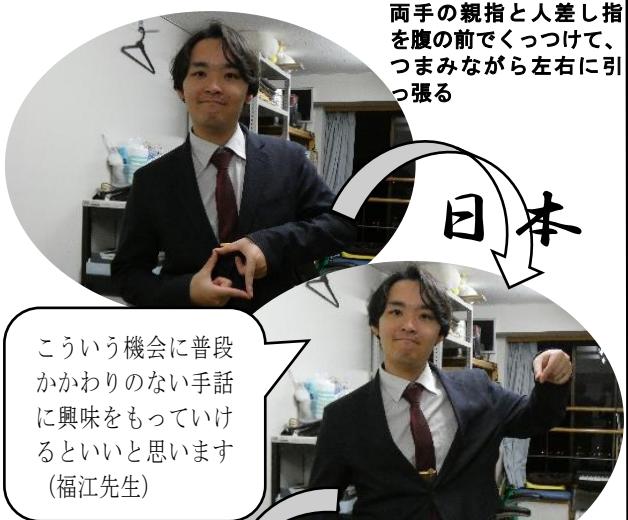
パフォーマンスでは日本で手話を使うことが禁じられてきた時代と現在が舞台で表現され、最後はダンサーたちがロゴマークの形に並んだ。聞こえる人も聞こえない人も障害のある人が、どちらがいる。F.P.は「音」と「声」を頼りにプレーをする。「音」とはボールからの音。以前取材させていただいた陸上の山田真樹選手とテコンドーの星野萌選手が手話で選手宣誓を行った。

パフォーマンスでは日本で手話を使うことが禁じられてきた時代と現在が舞台で表現され、最後はダンサーたちがロゴマークの形に並んだ。聞こえる人も聞こえない人も障害のある人が、どちらがいる。F.P.は「音」と「声」を頼りにプレーをする。「音」とはボールからの音。以前取材させていたいた陸上の山田真樹選手とテコンドーの星野萌選手が手話で選手宣誓を行った。

パフォーマンスでは日本で手話を使うことが禁じられてきた時代と現在が舞台で表現され、最後はダンサーたちがロゴマークの形に並んだ。聞こえる人も聞

手話を覚えよう！⑪

今回手話を実演してくださったのは、英語科の福江幸喜先生と理科の岡田篤先生。第11弾で紹介するのは、東京デフリンピックで応援するために使うサインエールの一つ、「日本、メダルをつかみとれ！」だ。



右手の親指と人差し指で丸を作る。左手は、右手の上で胸の前で地面と平行にする。その後、右手を自分と反対の方向にくぐらせ、左手の上まで持ってくる。そして、右手を小指から握りしめる。



手話を覚えよう！⑫

今回手話を実演してくださったのは、英語科の坂内新先生。第12弾で紹介するのは、サインエールの一つ、「大丈夫勝つ！」だ。



サインエールを覚えて、会場で応援しよう！！

私たちがこれから観戦できる三連休の各競技の日程を紹介する。東京でデフリンピックが開催される貴重な機会だ。興味のある競技をぜひ会場で見て、選手を応援しよう！！

| | 22日(土) | 23日(日) | 24日(祝) | 25日(火) | 自転車(マウンテンバイク) | ○ | ○ | 日本サイクルスポーツセンター |
|------------|--------|--------|--------|--------|----------------|---|---|----------------|
| 陸上競技 | ○ | ○ | ○ | ○ | 駒沢オリンピック公園など | ○ | ○ | 伊豆大島 |
| バドミントン | | ○ | ○ | ○ | 京王アリーナ | ○ | ○ | (観戦不可) |
| バスケットボール | ○ | ○ | ○ | ○ | 大田区総合体育館 | ○ | ○ | 東京アクアティクスセンター |
| ビーチバレー | ○ | ○ | | | 大森ふるさとの浜辺公園 | ○ | ○ | 東京体育館 |
| ボウリング | ○ | ○ | ○ | ○ | 東大和グランドボウル | ○ | ○ | 中野区立総合体育館 |
| 自転車競技(ロード) | ○ | | | | 日本サイクルスポーツセンター | ○ | ○ | 有明テニスの森 |
| サッカー | ○ | ○ | ○ | ○ | Jヴィレッジ | ○ | ○ | 駒沢オリンピック公園 |
| ハンドボール | | ○ | | ○ | 駒沢オリンピック公園 | ○ | ○ | 府中市立総合体育館 |
| 空手 | | ○ | ○ | ○ | 東京武道館 | ○ | | 府中市立総合体育館 |



聞こえない世界を体験！ 東大和市のデフリンピックイベントに参加してみた

日本代表トークショウ

10月11日(土)、東大和市の東大和グランドボウル・インドアテニスコートで東大和市主催の「デフリンピック丸ごと体感フェス」が開催された。編集部4名は土曜日の授業後、雨の中自転車を飛ばしてイベントに参加した。

(63回 生編集部)

された。手話ダンスとは、歌詞のイメージが伝わるように手話を曲中に組み込んだダンスのことである。ステージに上がったのは、手話プロダンサーのSORAYA(そらんさん)と北村仁さん、そして手話ダンスチームの「UD DANCERS JAPAN」の皆

さん。楽曲の歌詞そのままの手話だけではなく、歌詞の意味やイメージを中心とした手話もダンスに組み込まれていた。手拍子を呼びかけたり、その場で練習した手話ダンスを観客と全員で踊ったりなど、耳が聞こえる聞こえない関係なく楽しめるステージだった。

第1部前半では、東京デフリンピック2025に出場するデフアスリート4名が招かれてトークショーが行われた。まだメダルを取ったことがないと話す陸上の門脇翠選手は、最低でもメダルを取ることが目標だそう。「応援よろしくお願いします」と笑顔を見せた。ボウリングに出場する石井和一選手は、努力は大事だと真っ直ぐに語る。大会本番に向けて「頑張りたいと思います」と意気込みを話した。卓球に出場する灘光晋太郎選手は、金メダルを取ることを目指に掲げているという。「記録に残るような試合にしたいです」と前向きな姿勢を見せて。見てくれる人が熱くなれるような試合にしたいと思いつぶやく語るのは、男子バレーボールに出場する高橋竜一選手。観覧席へ向けて「東京デフリンピックで会えることを楽しみにしています」と話した。

イベントで指導をしてくれたデフ陸上日本代表の門脇翠選手(右)から3番目)と北谷宏人選手(右)と一緒に「デフリンピック」という手話で記念撮影!

雨の中、多くの人が集まつた

デフ陸上



デフバレーボール

日本代表に直接アドバイスをいただく編集部員。デフバレーボールの難しさを体感することができます。(左)

聞こえないけれど、声を出すようにして気持ちを相手に伝えるようにプレーしています(高橋竜一選手)

バレーボールは耳栓とヘッドホンをしてデフ競技を体験。日本代表の高橋竜一選手から指導を受けた。実際にやってみると味方の声が聞こえづらいのはもちろん、自分の意図が伝わっているのかもわからなくて不安になった。お互いに聞こえない中で、選手たちはどれほど時間をかけて自分たちが持つハンデに向き合って練習を重ねてきたのか、考えさせられた。

イベントを通して、聞こえづらい、聞こえないというハンデを持ったながら、実際にデフリンピックの戦っているデフアスリートの方々の偉大さを実感した。ぜひとも実際に足を運び、デフアスリートや、使われる手話などに触れてみよう。それだけでも、自分の知らない世界を知れる良い機会となるはずだ。

デフ卓球



実際に選手たちが手話を使っている様子などを試合会場に足を運んで見てみてほしいです。何より、日本選手が金メダルを取れるように応援してほしいです(灘光晋太郎選手)

た。会場全体が一体となつて盛り上がり、観客席にはたくさんの方々が見られた。第2部では、陸上・バレーボール・卓球のデフ競技を、各競技の日本代表選手から教わりながら体験することができた

た。会場全体が一体となつて紹介する。